

第37回宇宙政策委員会 議事要旨

1. 日時：平成27年3月20日（金） 10:00-12:00
2. 場所：内閣府宇宙戦略室大会議室
3. 出席者
 - (1) 委員
葛西委員長、青木委員、中須賀委員、松本委員、山川委員、山崎委員
 - (2) 政府側
小宮宇宙戦略室長、中村宇宙戦略室審議官、頓宮宇宙戦略室参事官、内丸宇宙戦略室参事官、森宇宙戦略室参事官、末富宇宙戦略室参事官、守山宇宙戦略室参事官
4. 議事要旨
 - (1) 宇宙安全保障部会、宇宙民生利用部会、宇宙産業・科学技術基盤部会からの報告
宇宙安全保障部会の審議状況について、資料1に基づいて中須賀部会長から報告を行った。宇宙民生利用部会の審議状況について、資料2に基づいて中須賀部会長から報告を行った。宇宙産業・科学技術基盤部会の審議状況について、資料3に基づいて山川部会長から報告を行った
 - (2) 各工程表の成果目標について
各工程表の成果目標について、資料4に基づいて事務局から説明があり、これについて審議を行った。「各工程表の成果目標について（案）」については、一部修正の上、委員会として了承された。
 - (3) 平成28年度に向けて検討すべき課題について
平成28年度に向けて検討すべき課題について、中須賀委員及び山川委員から資料5に基づいて説明があり、これについて審議を行った。「平成28年度に向けて検討すべき課題（素案）」については、委員会として了承された。平成28年度に向けて検討すべき課題については、宇宙政策委員会での議論も十分に踏まえ、今後各部会で審議することとなった。

主な意見は以下の通り。

- ・宇宙を活用した新産業創出に向けては、委員のみならず、外部の有識者の知見を広く集めていくことが重要。
- ・アウトカムは、その性質上定量化が困難だが、可能な範囲で定量化し、関係府省等が共有して一体となって、その達成を目指していくべき。
- ・資料4において、個別の工程表の成果目標の詳細が固まった。今後は「宇宙政策の三つの目標」の達成に向けて、項目間の連携、相乗効果も模索する必要がある。
- ・即応型小型衛星やその打ち上げシステム、抗たん性など、関連する項目を連携させて議論を深めていくべき

以上